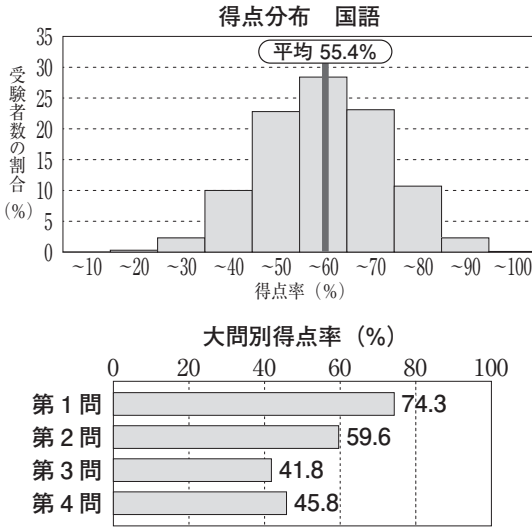


受験本番に向けて、基礎事項・解法の確認、時間配分も意識した直前学習に取り組もう！

I. 全体講評

センター試験がいよいよ目前に迫ってきた。「最終12月センター試験本番レベル模試」の受験生の平均点は一一〇・七点であった。

分野ごとにもみると、現代文はよい結果であった。特に評論は非常に良い結果で、論理的な読解法が身に付いてきたようだ。本番に向け、よい傾



向である。また、漢字の正答率が高かったのも、良かった。小説についても、前回同様で正答率は六割ほどの結果であった。ただし、前回から大きく下げた受験者も目立った。該当する諸君はしっかりと復習し、「小説も論理的に解答する」ことを再度確認してほしい。

古典は古文・漢文とも、もう一歩であった。中には難しい問題もあったかもしれないが、語彙と基本的な文法、漢字・句法で解ける問題を落としている受験者も多かった。

各自、とるべき設問が取れていたか、設定した目標・課題が達成できたかどうか、よく見直して仕上げの学習に役立ててほしい。

中には力が出しきれなかった諸君もいると思うが、落胆せず、照準を本番に合わせて粘り強く頑張ることが大切だ。間違えた問題と、苦手意識のある分野について、どこでどう間違えたのか丁寧に振り返ろう。

今回、漢文で伸び悩んだ諸君も多かったが、漢文は短期間でも得点を伸ばせる分野である。重要な句法について完璧にマスターし、重要漢字を一気に覚えれば、点数が取れていなかった人は特に劇的に点数をアップさせることも可能である。

また、現代文では漢字や語句などの基礎問題で失点しては何にもならない。基礎問題では確実に

点を取るのだということ強く意識して演習を重ねよう。漢字は、「勉強と勉強の合間の気分転換に漢字練習をちよつと入れる」というようにするなど工夫して、少しずつでも確認を行っていく。

今後は学習の密度をいっそう高め、本番で実力が十分発揮できる態勢づくりをしていくことを心がけよう。これまで培ってきた自分なりの方法を活用し、最後まで気持ちを強くもって粘り強く取り組みることが、何よりの力となる。

新高3・新高2生においては、受験生の今の状況を知るとともに、この模試で課題を見つけ、本格的な国語の勉強を開始しよう。

II. 大問別分析

第1問 (評論)
問6の表現効果の問題は、必ず本文の該当箇所に戻って確認しよう！

全体の得点率が約七四・三%と、かなり高かったが、いつもより点数が取れたからと言って喜んでいけない。逆に、今回なぜか点が悪かったという諸君は、むしろチャンスかもしれない。自分の弱点がこの問題を解くプロセスにひそんでいるはずだ。いつも以上にしっかりと復習しよう。

問3の正答率が六四・三%と他と比べるとやや低めであった。ここで間違えた人は、選択肢の言葉遣いの「見かけ」が本文と大きく異なっていることに惑わされる傾向があると考えられる。字面が違っているにもかかわらず、本文の主旨に合っていればそれは正解となることを覚えておこう。

問5は、間違い選択肢①を選んでしまった受験者が二割弱もあった。傍線部の「へ鏡」に込められた意味は理解できたが、もう一つの「限界」についての考察が足りなかった。傍線部の言葉を見落とさないように、一字一句のすべての言葉をしつかり具体化して考えよう。

最も正答率が低かったのは問6の(i)である。各選択肢で示されている表現効果が、説明の通りかどうかは本文を確認してみないとわからない。

たとえば①の「へ」の表現効果に関する説明では、「直前で説明されている内容まで含めた意味合いが込められている」のかどうかについて、実際に本文に戻って確認すべきである。

正解選択肢③を落とした受験者の中には、「それなりに」という言葉を使う時、必ずしも「後に筆者が反論する」意味を含めているわけではないと考えた人もいるかもしれない。しかし、ここで問われているのは「それなりに」の一般的な用法ではなく、あくまで本文に限定された表現効果である。実際に後ろの部分で筆者は反論しており、ここでは「それなりに」に「譲歩」の意味合いが含まれていると判断することができる。

残ったわずかな時間、選択肢を選ぶ基準を間違えないように、最後まで学習を重ねよう。

第2問 (小説)

直前にはあえて難問に挑戦して、自信をもって本番に臨もう！

今回の第2問は得点率が六〇%を割り込み、第1問の評論よりも低成績の結果となった。たしかに文章量が多く、内容が屈折していて読み取りにくい部分もあり、本文を読解して設問の解答に至るまでに予想以上の時間を費やしたとも考えられる。ただし同じ汽車の光景を扱った本年度のセンター試験と比べて、ハイレベルなので、まずまずの結果であったといえる。「難は易を兼ねる」という意味でハードな問題を解いたことに自信をもって本番に臨んでほしい。

正答率が低かったのは問1の語句の意味に関する設問で、(ア)の「これはしたり」が正答率三〇%台で、③「しかたがない」とした者が多かった。俗語の「やばい」が良い意味でも用いられる場合があるのと同じく、両義性をもった語句は、文脈で判断することも必要な場合がある。(ウ)の「不如意げな」も約四〇%の正答率で、②「心配をたくさん抱えた」の誤答が目立った。

問2・問3・問5は決して平易な問題とはいえないが、ここは善戦した。逆に問4はさほど難問とも思えないのだが、五〇%程度の正答率しか示していない。傍線部直前の「男」の気まずい立場の描写だけから判断したのかもしれないが、直後の「私」の立場をより重視すべきだった。根拠となる部分はどこか、慎重に判断しよう。

問6の表現に関する問題は二つの解答ともに正答率は低く、②は三五・五%、⑥は五〇・二%で、

誤答は④が目立った。子供連れの「女」に対する「私」の感情は多少の同情を含んでいたとせよ、最終的に「強い違和感を覚えた」として問題はない。②の場合は「力強い決意表明」が不適当である。

第3問 (古文)

主語の把握に注意し、本文との照合を心がけよう！

『小夜衣』から、兵部卿官が、姫君への思いを宰相の君を通して尼上に伝える場面である。全体の得点率は四一・八%であった。

問1の語釈問題は、慣用句が問われており、(ア)は六割、(イ)・(ウ)は約四割の正答率であった。(ア)「なべてならず」は姫君の欠点ととらえた誤答の②、(イ)の「世をそむく」は「死ぬ」ととらえた誤答の②、(ウ)の「人となる」は「世間に馴れる」ととらえた誤答②・③が多かった。どれも基本単語である。

問2は、敬意の対象の問題で、正答率は五割を超えた。b「仰す」の尊敬語はわかりやすく、これが正しい④・⑤は八割程度の受験者が選べた。一方でc「侍り」は謙譲語と丁寧語の二つの用法があり、区別が曖昧だったようだ。

問3は、尼上の会話文の内容合致問題で、正答率は三割に至らなかった。姫君の将来を尼上が心配しているという先入観からか、この世に執着がないとする③を「不適切」とする誤答が多く、正答率を超えた。

問4は、心情説明の問題で「心もとなく」の意

味が正しい②・③・⑤に分散した。正答率は五割弱。尼上の返事の記述は本文にないが、返事を保留したとする⑥への誤答が多かった。

問5は、和歌の説明問題で、特にBの歌が宰相の君が姫君の代弁をしていることが読み取れていない。正答率は約三割であった。姫君の歌とした③への誤答は二割、尼上の歌とした④・⑤への誤答はあわせて三割あった。敬語や場面の状況に注意して主語を把握しよう。

問6は、内容合致問題で、正答率は四割に届かず、誤答は⑤に集中した。尼上の返事も、それを宰相の君が不本意と受け取ったかどうかも本文には書かれていないことである。本文にないことは正解にはならない。しっかりと判断しよう。

第4問 (漢文)

まず句法を確認しよう！ 読解は句法と文脈の両方からアプローチする。

『蘇文忠公全集』の、亡き妻を偲ぶ文章からの出題である。得点率は四五・八％。選択肢を二つまでは絞れているが、最後の詰めで失点している誤答が多いようだ。

問1の語の読みの問題は、(a)「輒(すなはち)・(b)「略(ほぼ)」はよくできていたが、(c)「蓋」を「盍」と間違えた誤答②・③が合計二割を超えた。形の似た字に注意し、正確に覚えよう。

問2の語の意味の問題は、亡き妻の性質を表す言葉であるが、特に(ア)の「敏」が正答率二割で苦戦した。語義がわからない場合は、前後の文脈を

ヒントにしよう。ここでは書物をよく理解していることから判断する。(イ)「静」は正答の「恭謙」の意が難しかったが、まずまずの出来。

問3は、句法「未だ嘗て……ずんばあらず」を含む傍線部を書き下す問題で、正答率は二割に届かず、誤答も分散した。句法が正しい②・③を合わせると五割を超えているが、正答②の「問知」という語になじみがなかったのだろう。誤答の③は内容がおかしいが、正答率を超えてしまった。

問4は、句法「ざるべからず(しなくてはならない)」を含む傍線部の解釈で、五割の正答率であった。ここは句法は正しいが意味が不適当な④への間違いは少なかつた。句法よりは文脈から判断して解答しているようである。

問5は、句法「何ぞん」を反語で解釈し、「是の人」がどのような人物かを読み取る。正答率は五割強。妻は「是の人」には否定的だが、肯定的な②・⑤にも二割以上が誤答があった。

問6は、直前の妻の発言を受けて「然り」の内容を説明する。ここは六割を超えてよくできていた。誤答の①を二割近くの受験者が選んでいるが、本文に「裏切り」の記述はないので注意しよう。

問7は、妻の発言として適当でないものを、七つの選択肢から二つ選ぶ問題である。明らかに本文に述べられていない「隠しごと」や「嘘」についての⑤は五割近い正答率が得られていたが、夫の言動に反対したという③は四割を切っている。意見は述べているが、「反対」してはいないことがポイントである。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆自分なりの戦略と計画を立てて、直前学習に取り組もう！

本番での得点を最大化するためには、残り少なくなった時間を、どこに、どのように使うのか、明確な戦略と計画を立てて学習に取り組むことが必要だ。新しいことに手を出すのではなく、授業のテキストやノート、過去のセンター試験本番レベル模試、愛用の単語集や問題集。これらをしっかり見直すことを中心に学習プランを立てよう。これまで蓄えた知識の総点検もおこう。

◎新高3生・新高2生

◆目的意識をもって学習に取り組み、厚い土台を作ろう！

前回に引き続きこの模試を受けた諸君は、前回の結果を踏まえ自分なりの目標と課題を設定して受験しただろうか。漫然と模試を受けていても学力は伸びない。「受験後の復習と結果の分析」↓「次回に向けての目標・課題設定」↓「計画的課題実行」というプロセスを着実にしよう。

また、今回初めて受けた諸君は、「センター試験は教科書レベル」「基礎レベル」という図式が、国語に関しては通用しないことがわかったはずだ。問題文の内容や設問の難度は、難関国公立大二次試験、難関私大入試レベルとしても十分に通用する。これまで国語の勉強を特にしてこなかったという諸君は、ここから、入試に向けた学習を開始してほしい。